

介護福祉士養成校の学生に対する介護実践記録の指導

The care record training for a student at the welfare college

渡辺修宏

Watanabe Nobuhiro

水戸総合福祉専門学校

Mito Welfare College

Key words: welfare college student, recording skill, care record,

問題と目的

介護福祉士を目指す学生は介護福祉実習において、「実習日誌」という介護実践の記録を作成しなければならない。したがって、学生はそのために必要な技量の獲得を、介護福祉実習に参加する前までに求められることとなる。ところが、岡本(2012)がいうように日本語文章能力が不足している学生は少なくなく、実習先から介護実践記録の作成が不十分であると指摘される事例は枚挙に暇がない。岩井(2009)は、実習日誌を書けない学生の多くは、「考えること」ができて「書くこと」がままならないという。そういった意味では、介護実践記録の内容という質の問題より、まずは、「実習日誌を書き埋める」という量の問題に焦点をあてる必要があるだろう。そこで本研究は、介護実践記録作成に課題を抱える学生を対象に、介護実践記録の作成技量の獲得のための、具体的な記述行動の改善を目指した指導方法について検討する。

方法

参加者 本研究の対象者は、介護福祉士養成課程1年次に在籍する18歳の男性aであった。aは介護福祉士養成校に入学した直後より「文章が苦手」「キレイな字が書けない」「実習日誌が書けない」といった不安を表出していた。

期間 aが介護福祉士養成校に入学して半月後より、aが初めて参加した介護福祉実習(第1段階実習6日間)の終了直後までの約4か月間(20XX年4月下旬~8月下旬)。

手続き 介護実践記録作成に不安を抱えるaに対し、課外で、記録作成の演習としてレポートを作成するよう指示した(介護実践記録作成にかかわる正規授業は、「介護総合演習」で2コマ/1週)。レポート用紙はA4サイズ1枚(24文字×15行、360文字数)で、課題はランダムに提示された。aがレポートを完成させた際、その直後に研究者がaを言語的に賞賛した。レポート作成は、介護福祉士養成校の教職員室で実施された。

独立変数 (1) レポート用紙の縦枠線の設定。この設定は、①1文字単位の黒太枠線、②1文字単位の黒細枠線、③1文字単位の黒点枠線、④2文字単位の黒点枠線、⑤枠線なし、の順番にフェイディングされた。(2) 言語指示: 「段落をつけて書きなさい」

従属変数 レポート作成における以下の項目を従属変数とした。(1) マス内記入率、(2) レポート作成時間、(3) 段落数(文頭1文字あけと、必要に応じた改行)。

倫理的配慮 研究は、対象者への研究参加の説明と同意

のもと行われた。対象者は、いつでも自由に研究参加を辞退することができた。

結果と考察

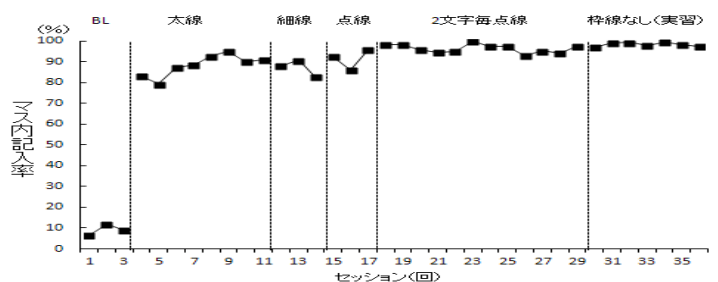


図1 レポートマス目内記入率の推移

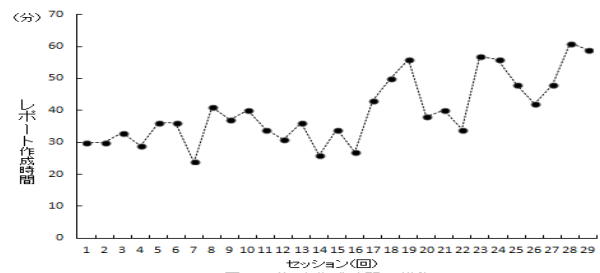


図2 レポート作成時間の推移

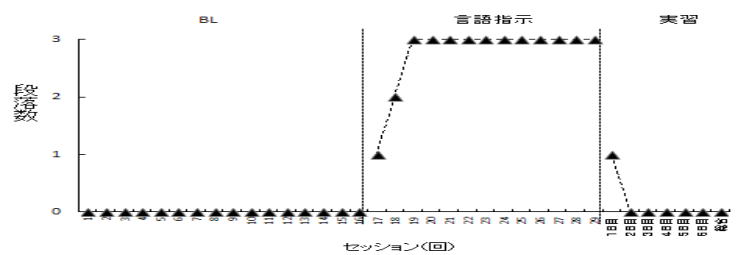


図3 レポート内の段落数の推移

aのレポートのマス目内記入率を図1に、レポートの作成時間を図2に、レポートにおける段落数を図3に示した。枠線を設けることによってレポート用紙記述欄内の記入率は向上し、枠線が除去された実習中においてもそれは維持された。段落は、言語指示によって生じられるようになったが、介護福祉実習がはじまるとみられなくなった。

参考文献

岩井恵子(2009). 思考力を育てる実習記録への試み, 大阪体育大学短期大学部研究紀要 10, 17-32
岡本真理子(2012). 介護実習記録作成能力と日本語表現・教養ゼミナールの成績との関連性, 東海学院大学紀要 6, 45-51